

自然観察指導員の会 & 自然保護センターの共同企画

日本の原風景「赤とんぼ」を見つめ直すプロジェクトの概要

1. 背景

童謡に歌われている赤とんぼは、誰もが知っている身近な生き物の代表です。しかし、この日本の原風景の代表である赤とんぼが群れる秋の風情が今、国内から急速に失われています。

<現状>

- ・ 北陸地方では石川県と富山県で激減(1989年⇒2007～2008年 1/100～1/150に減少)
- ・ 福井県は全国平均より多いが、地域によってはかなり減少
- ・ 半数以上の府県で1/1000に減少

参考資料: 上田哲行氏(石川県立大学名誉教授・客員教授)の講演および以下の出版物

- ・ トンボと自然観(2004、京都大学学術出版会)編著
- ・ シリーズ新・生命の輪 38「全国で減少するアキアカネ」自然保護 9・10月号(No.529)
- ・ 日本から「赤とんぼ」がいなくなる. 日刊 SPA! 2014,12,20(付属資料)

2. 目的

- ・ 福井県内の赤とんぼ(特にアキアカネ)の分布を調査し、地域間の個体数差や低地への移動時期に関する情報を発信する。
- ・ 県内の農家が、環境にやさしい農法について考えるきっかけになる、赤とんぼと稲作の関係に関する情報を発信する。
- ・ 日本の原風景である「赤とんぼが群れる秋の風情」を守り育てるために、今回の調査を活用した赤とんぼの普及啓発活動を行う。

3. 調査方法

(1)調査対象種

- ・ 主対象 :アキアカネ
- ・ 補助対象:ナツアカネ、ノシメトンボ、マユタテアカネ ※識別可能な方のみでよい

(2)調査時期と回数

- ・ 9月中旬から11月中旬の晴れた日(ただし強風の日を除く)

(3)調査場所

- ・ 県内一円の田んぼとその周辺部

(4)調査内容

①稲刈り後の水たまりのある田んぼの中を通る道路上におけるダンデム飛行ペア数調査

※ダンデム飛行とは:雌雄のトンボが連結したまま移動する飛行

- ・ 定点調査(10分)により、前方50m範囲内をダンデム飛行で通過するペア数を記録する。
- ・ 調査は、晴れた日の午前9時半から11時までの間に行う。

②田んぼ脇の林縁部における個体数調査

- ・ 林縁部を100m/5分の速さで歩き、左右20m範囲内の枝先や電気柵等に止まっている個体数を記録する。
- ・ 調査は、晴れた日の13時以降に行う。